

現状把握

個別の「おでかけ」ニーズに 既存の公共交通が対応できていない

- 地形的制約(坂道・狭隘道路)や身体的制約により、バス等でカバーできない「おでかけ」が存在

「おでかけ」が自家用車に依存しており まとまった移動需要を円滑・効率的に 運びきれっていない

- 通勤通学・駅周辺での活動・観光やイベント等によるまとまった需要も自家用車で個別に輸送

地域交通を持続的に運営するための 基盤が整っていない

- 運転手不足・人口減少等により、サービスを続けていく体制確保が困難

地域公共交通の目指す姿

①地域公共交通までの「あと一歩」を支え、誰もが気兼ねなく「おでかけ」できるまち

- 移動に制約がある人も含め、安心して外出や社会参加できる環境を作る

②使いやすい地域公共交通で「おでかけ」がもっと楽しくなるまち

- 自家用車でなくても「おでかけ」がもっと楽しくなる環境を作る

③「おでかけ」を支えるしくみを、安定して続けられるまち

- 住民、利用者、交通事業者、行政、その他関係者全員で協力し合い、持続的に「おでかけ」を支える体制を築く



現状把握	(各種調査から見てきた実態)				地域公共交通の目指す姿	具体的に実現したいこと
	社会経済状況・移動全般	地域公共交通の実態	行政ヒアリング	交通事業者ヒアリング		
<p>個別の「おでかけ」ニーズに既存の公共交通が対応できていない</p> <p>地形的制約(坂道・狭隘道路)や身体的制約により、バス等でカバーできない「おでかけ」が存在し、外出や社会参加の機会を損ねている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 逗子市の高齢化率は全国平均に比べて高く、高齢者の移動支援によって「おでかけ」できることを大きく増やせる ・ 市内は坂道が多く、高齢者・障害者や子育て世代にとって移動が負担になりやすい ・ 狭隘な道路・歩道や坂道・段差が多く、徒歩・自転車の移動に支障が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスが運行されていない地区においては、自家用車がないと外出が困難 ・ バス停から離れた地区でタクシーが移動手段として機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健センターや療育教育総合センターなど、公共交通で行きにくい公的機関が複数存在 ・ 公的機関等への移動手段が不足していることが、市民の機会損失の発生や移動負担の増大につながっている ・ 福祉バスの運行日が限定(高齢者センター・逗子アリーナ行き) ・ 送迎ボランティアの担い手不足・高齢化が進行 ・ 市外病院への通院手段が限られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス車両では進入できない区域が存在(高台・谷戸等) ・ JR東逗子駅はタクシー待機スペースが少なく、タクシー利用者も少ない ・ 谷戸地区は道が狭く、自宅前までタクシー送迎が行えないことがある ・ 利用希望が多い時間帯(主に早朝)はタクシー、福祉有償運送ともに予約対応が困難 	<p>①地域公共交通までの「あと一歩」を支え、誰もが気兼ねなく「おでかけ」できるまち</p> <p>※個々の住民の日常生活・社会生活の視点</p>	<p>地域公共交通を利用できるようにする手段を提供することで「おでかけ」不便地域・時間を解消し、移動に制約がある人も含め、安心して外出や社会参加できる環境を作る</p>
<p>「おでかけ」が自家用車に依存しており、まとまった移動需要を円滑・効率的に運びきれしていない</p> <p>市内には通勤通学・駅周辺での活動・観光やイベント等、一定のまとまった需要があるが、地域公共交通が十分に活用できていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉山、鎌倉、横浜、都内などの広域な移動が多くを占め、市外への通勤・通学者が多い ・ 市内では、逗子駅周辺を起終点とした流動が多い ・ 海水浴シーズンは逗子海岸や逗子マリーナ関連の流動が増加 ・ 主要道路は混雑度が1.0を超え、交通容量が不足 ・ 逗子駅周辺は慢性的に渋滞(通過交通、自転車との輻輳、道路幅員の狭さ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道が主要交通手段であり、朝夕の通勤通学時間帯に需要が集中 ・ 市内駅ではJR逗子駅の乗降が最も多く、逗子市民のみならず葉山町民も多く利用 ・ バスについては、市外路線の利用が多く、市内路線の利用は相対的に少ない ・ 市内小坪・池子地区でバス利用が比較的多い ・ バスの多くは逗子駅が起終点であり、逗子駅以外の目的地に行きづらい ・ タクシー利用は逗子駅周辺を起終点とした利用が多く、特に葉山町関連の移動が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外病院への通院手段が限られている(再掲) ・ 実証実験中のシェアサイクルの利用が増加し、新しい地域交通手段として検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外バス路線(葉山方面等)では、朝夕のピーク時間帯等に供給を上回る利用がある ・ バスの運転手不足が深刻化し、利用が多い路線においても減便が進む ・ 逗子駅付近の交通渋滞により路線バスの遅延が発生、定時性が大きく低下(市民からも、時刻表通りに来ないことが多いため、バスが使いづらいとの声もある) 	<p>②使いやすい地域公共交通で「おでかけ」がもっと楽しくなるまち</p> <p>※住民+来街者が動くことで、まちが活性化する視点</p>	<p>地域公共交通の利便性・快適性を高め、自家用車でなくても「おでかけ」がもっと楽しくなる環境を作る</p>
<p>地域交通を持続的に運営するための基盤が整っていない</p> <p>運転手不足・人口減少等により、サービスを続けていく体制確保が困難になっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 逗子市の人口は減少傾向にあり、高齢化が一層進行 ・ 一方、30~50歳の人口は増加傾向にあり、逗子市の合計特殊出生率は全国平均よりも高い(若年層・子育て世代の定着が課題) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉・葉山などに繋がる市外路線は利用が多い一方で、市内循環のバス路線は利用が少なく、収益性のバランスが課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎ボランティアの担い手不足・高齢化が進行(再掲) ・ 過去に実証実験を行ったデマンド型乗合タクシーは事業化に至らなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスの運転手不足が深刻化し、運行の安定確保が難しい ・ タクシーの運転手不足の影響もあり、深夜~早朝に対応可能なタクシーが少ない 	<p>③「おでかけ」を支えるしくみを、安定して続けられるまち</p>	<p>①②の実現のために、住民、利用者、交通事業者、行政、その他関係者全員で協力し合い、持続的に「おでかけ」を支える体制を築く</p>